

議長／皆さんおはようございます。

休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づき、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、12名の議員から40項目の通告がなされております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に御協力をいただきますようお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは最初に3番 毛利議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

3番 毛利議員

毛利議員／ただいま議長より登壇の許可をいただきました、3番 毛利清彦、9月議会の一般質問をさせていただきます。

今回も2回目のトップバッターでございます。

今年の夏は、猛暑が続き、水不足を心配しましたがけれども、お米も元気にすくすくと成長して、秋風に揺れる稲穂の写真を今、見てください。

夢しずくの写真ですが、今月9月の22日から刈り入れ、また来月にはさがびよりが10月上旬より稲刈りが始まるとお聞きいたしております。

***美しい風景を頭に入れて質問をしたいと思います。

今日は2点ですので、国道498号バイパスについて、伝統行事の継承の2点でございますので、簡潔にお尋ねいたします。

まず、最初に国道498号線バイパス、通称よんきゅっぱと呼ばれる国道です。

先日、7月8日の日に佐賀新聞に掲載されました鹿島、武雄、アクセス改善へということで、国道498号バイパス整備構想というのが発表されて、町民がざわついたわけでございます。

この問題はもう昔からあるよと。

これは山を通るんじゃないのか、これは20年以上もかかるよと。

中には、鹿島市のために早う通さんかと、そういう意見も耳にするわけでございますけれども、おさらいでございますけれども、起点が鹿島市の国道207号線、常広交差点から、武雄市、伊万里を通過して、終点が佐世保市役所前の交差点まで、約60キロの間の国道です。

そこで、今日は9月の9日ですけれども、昨日、平成30年9月8日に、6年前に開通しました、偶然にも一般質問してくれと、そういうような神様のお声が聞こえたわけですが。

武雄市の若木町川古から伊万里市の松浦町桃川までの3.4キロの距離でございます。

懐かしい写真だと思いますけれども、本当に立派なバイパスができたわけです。

最初の質問ですけども、この若木バイパスができるまでの経過と経緯、また着工まで、完成まで何年かかったかお聞きいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／おはようございます。

議員御質問の国道 498 号若木バイパスは、平成 19 年に事業化がされ、平成 22 年度から工事に着手し、先ほど御紹介いただきました平成 30 年 9 月に供用開始をしております。

着工から完成まで約 12 年を要しております。

以上でございます。

議長／3 番 毛利議員

毛利議員／今、12 年かかったということでございます。

やはり、道を造るというのは大変時間がかかる、用地買収等々、大変困難といえますか、苦労をされる、道を造るのに大変な問題だと思っております。

そこで、県の杵藤土木事務所がホームページを 6 月 24 日に出されました。

ちょっと拡大しますけども、ここに、国道 498 号線鹿島武雄間の整備ルートを検討しています。

赤線を引いていますけれども、鹿島市から武雄市間について、具体的な整備ルートを検討するための範囲（1 キロ幅のルート帯）を絞り込みましたと。

後で説明しますが、1 キロ幅のルート帯。

沿線各市のまちづくりや産業、観光など振興など、様々な点から検討を行ってきましたと。

このルート帯を基に具体的な整備ルートの検討を進めてまいりますということが書いてありました。

そこで、このルート帯、鹿島からスタートして、ここは高橋の水道場ですかね、排水機場。

ここまでの間の 498 号線を検討していますということです。

ちょっと拡大しますと、橘町を通るルートです。

おつぼ山があって、橘小があって、高橋排水場までの距離です。

この幅を、グレーゾーンの幅をルート帯と考えておられるそうですが、ルート帯を 498 号、上下、両サイドを 500 メートル、500 メートルで 1 キロの幅、ここにバイパスを通すと。

そこで、沿線各市のまちづくりや産業、観光の振興などということが書かれておりますけども、橘町を通るルートでございます。

まちづくりや産業、はてという言い方、これは何なのかということで、橘町はどうなるんだ

ろうかということで、まちづくり。

そこで、こういうのも書かれておりました。

考慮すべきということで、学校などの公共施設、また、ライスセンターなどの農業施設、農業用水を供給する導水施設といいますかね、地域主要な建物や施設、これを通らないと。

地域自然環境や文化遺産、あそこにはおつぼ山神籠石、国指定ですけども、玉島古墳も県の指定ですけども、それと、カササギの生息地、カササギも見たことないのですけれども、カササギの生息地、これを考慮すべきということで書いてありました。

これですね、橘町の山林は約 41%、農地が 38%、そのうちの 30%は田んぼです。

そこに道を通すとなると、先ほど若木の話が出ましたけども、道幅が 3 メーター、3.5 メートル、1 車線で 15 メーターの幅の道。

のり面をつくったら、推測ですけど 20 メーターくらいの幅の道が必要になると。

今後、地域の特性などを考慮しながら、具体的なルートを検討してまいりますということで書いておられますけども、いつも気になるのは地域の特徴。

それで、もう一つですね、地域の特徴、これなんですけども、交差する道路ということで、いろんな、鹿島市、嬉野市、武雄市を通る場合に、交差点、ここを通りますよということで、これも拡大しますと、完全に橘町の檜崎交差点、橘農協支所前交差点、これは元ですけども、鳴瀬橋の東交差点、二俣交差点と、その辺を交差するところを通りますよということですけども、いろんな問題があると思いますけども、まず、橘町を通る場合に、先ほど 30%の田んぼと申しましたけども、まず、ここを通ったら田んぼがなくなる問題。

ちょっと山際を走ると、居住地もたくさんありますので、移転の問題。

それと、高速道路の下を通る、高速道路の高さが 6.2 メーターしかないので、高速道路を、ちょっと前に戻しましょうか。

ちょうど橘小学校の横に高速道路があります。

その高さが 6.2 メーターしかないので、その下を盛り土してバイパスをつくるという可能性は不可能に近いんです。

だから、盛り土をしない道を造るかどうかという問題があるんですけど、一番ネックなのは、この高速道路がかかっている、そこに道を通す、不可能な話なんですけども。

そこで、先ほど申し上げたように、橘町、おつぼ山があつて、玉島古墳があつて、おつぼ山の上のほうの北檜崎の地域は、いろんな、また古墳があるとか、文化庁の管轄下にあるよと、そういう話も聞きます。

それと、橘小学校の前、農協の前に、成富兵庫がつくった水路、生見の石井樋があるわけですけども、そこを通るかなと。

通ることはできないよと。

そういうことで質問ですけども、こんな史跡地がたくさんある橘町に、道路拡張について文

化財課の御意見を聞きたいと思いますが、お願いいたします。

議長／野口こども教育部理事

野口こども教育部理事／おはようございます。

杵島山及び橘町は、史跡や埋蔵文化財包蔵地が集中する地域でございます。

県が実施する土木工事については、県の土木事務所、県の文化財保護活用室、市の文化課の間で開発行為と文化財保護の調整会議を行っているところです。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／県との話し合いをするということで、非常に史跡が多いまちでございます。

はっきり結論から申しますと、私の意見ですけども、いろんな史跡地がある写真ですけども、見てもらおうと分かりますけども、どこを通すかという話なんですけども、一個人の、区長さんと話し合いました。

こんな道ができるよと、田んぼどうするんだというそういう話もしましたけども、結論的に山を通そうじゃないかと、山を通したほうが一番簡単だよという。

私は、山を通すのは賛成といいますか、居住地がありますので、この幅の外といいますかね、2つ黄色と赤と書いているんですけども、鹿島市に、あそこに農道がありますけども、農道を通りました。

非常に山の農道が狭くて無理じゃないかと思っております。

中のラインですけども、史跡地を避けて、こういうラインもあるんじゃないかなと考えております。

この山際のラインをつくることによって、葬斎公園にも行く道がまたできるんじゃないかなと、バイパスの横道といいますかね。

それと白石町が喜ぶのは、あそこに日本三大の歌垣公園がある、犬山城の展望台がある。

あっちにもちょっと道を造ったら白石町が喜ぶんじゃないかなと、山際に道を造ったらどうかと。

区長会でも、もう20年後、30年後、田んぼを造らんよと。

子供たちも田んぼ造らんでよかという話ですけども、最初、写真を映しましたけれども、本当に、さがびより、これが最高ランクの、特A評価の14年連続のさがびよりを作っているところですので、ちょっと米、田んぼは避けて通りたい。

高速道路も大きな問題がある。

いろんな問題が生じておりますけれども、質問ですけども、県との協議の中で、山際を通る

ルート、今後どのように進めていかれるのか、お聞きいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／まずもって、ルート帯につきましては、伊万里市、鹿島市、嬉野市と武雄市の4市で構成しております、国道498号整備促進期成会におきまして、令和5年1月に県へ要望を行い、県は期成会の要望を受け、先ほど御紹介いただきました、令和6年6月に佐賀県のホームページに1キロ幅でのルート帯を公表されております。

今後につきましては、まず現在の道を改良し利用するのか、あるいは若木バイパスのように新たな道を整備するかの検討、また、幅員や車線数、歩道などの道路規格の検討、さらには、学校などの公共施設、農業施設などの重要施設や自然環境など、地域の特徴を考慮するなど、様々な検討がなされ、具体的なルートが決められていくものと存じております。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／最後に、市長にお尋ねしますけれども、昔から、まちづくりということでテーマに挙げて考えておられると思いますけれども、3市期成委員会、総会があると思いますけれども、この整備ルートについて市長のお考えをお聞きしたいと思います。

議長／小松市長

小松市長／おはようございます。

道路は命の道だというふうに、よく言われています。

道路ができることで、住民の命が救われたり、あるいは暮らしが豊かにならなければならないと、それが道路であると、私も考えています。

橘町のこれからのまちづくりを考えたときに、やはり一番大事なのは治水対策を進めて、そして、水害のないまちをつくること、そして、ほかには農業振興、さらには文化財の問題もあると思います。

こういったものを、道路を造ることで妨げてはならないというふうに思っています。

ルート帯についてはこれまで期成会で粘り強く要望して、ようやく県もルート帯の発表をするという段階になりました。

1キロ幅ですので、山側から田園のところまで、それなりに広く取ってあるというふうに考えておりますし、これまでの経緯を考えて、ルート帯の見直し自体は、今後、お願いするということは考えておりません。

ただ、先ほど申し上げましたように、道路をしっかりと造ることで、治水対策や農業振興にもしっかり配慮した上で橘町のまちづくりに必ずつながるように、そこは今後、県との協議でも強くお願いをしていきたいと考えています。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／ちょっと質問を一つ抜かしておりました。

5日の日に、第2回の住民意見交換会ということで、治水とまちづくりということで、会議を行っております。

第3回目が19日。

バイパス等におけるルート帯について、内水氾濫等が起きるんじゃないかという疑問もあるわけなんですけれども、すみません、遅くなりましたけれども、この件につきましてお尋ねいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／内水氾濫が発生しやすい地区でのバイパス化などの道路整備は内水氾濫対策も踏まえて行う必要があると考えております。

六角川流域水害対策計画骨子（案）では、重点整備地区に指定されている橘地区において、先ほど議員さんが御紹介いただきましたとおり、地域の皆さんと治水対策について意見交換会を行っております。

道路を活用した対策として、道路のかさ上げによる避難ルートの確保などについても、意見交換会を行っております。

安全対策を含め、今の橘町もまちづくりには、道路整備と治水対策をセットで考えていく必要があると考えております。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／ありがとうございます。

みっともない反対運動が起こらないように、この国道498、これは四苦八苦といいますけど、本当に四苦八苦しないような路線にしてほしいと思いますので、地元の代表者会議等々、みんなの意見を聞いて、早期実現に向けて進めて、着工をお願いしたいと思っております。

次に、伝統文化の継承についての質問です。

学校教育ビジョンを策定されまして、教育大綱、いろんな面で、地域社会で育て合う、文化

を生かしたまちづくりを目指す、地域資源を生かしたまちづくりということで、伝統文化、明日につながる伝統文化の継承、多彩な文化の創造ということで、教育基本方針を出されましたけども、大変立派な基本方針だと思います。

そこで、この伝統文化の継承について、一つ、東京都が出されました、伝統文化の考え方でございます。

これは東京都だけではなく、兵庫県とかいろんな都道府県で伝統文化を大切にしようというのを掲げております。

日本伝統、中に点がつけてあるのがすごいと思うんですけども、日本の伝統・文化に関する教育推進資料ということで「子供たちに伝えたい日本の良さ」、これは東京都の教育委員会が出された教育方針です。

私はその中で、私なりに箇条書きにさせていただきました。

伝統文化に関する教育の利点ということで読ませていただきますけども。

子供たちは自らの文化やルーツを理解し、誇りを持つことができる。

伝統的な価値観や倫理観は道德教育や人間形成にも影響を与えます、人間形成にも影響を与えると。

共同体の結束や文化の継承にも貢献し、社会的な調和と連帯を促進しますと。

このような利点があるということで、これらの要素から、伝統文化は健康や教育の分野で重要な役割を果たしていますということで、基本方針の伝統文化を大切にしようということが打ち出されております。

ここで質問ですけれども、伝統文化の継承について、市は、この伝統文化を教育の場でどう位置づけされているか、お尋ねいたします。

議長／松尾教育長

松尾教育長／おはようございます。

伝統文化に関する教育は郷土愛を醸成するという上で、非常に大切なものと認識しております。

武雄市でそういった伝統文化に関する資料をつくってございまして、一つは「すごいぞ！武雄」という冊子でございます。

あるいは「私たちの武雄市」というものにも、地域の伝統文化について紹介をしております。そういった資料、郷土学習資料を活用して、授業、あるいは総合の時間などで学習ができるようにしております。

例えば、総合的学習の時間の取組と言いますと、例えば武雄小学校の塚崎太鼓、橘小学校のおつぼ山神籠石、あるいは潮見川のかっぱ伝説、あるいは川登中学校の篠笛など、伝統文化

に関する学習に取り組んでいるところでございます。

加えまして、出前講座を活用しての学習、あるいは武雄市図書館・歴史資料館の企画展などを参観するなどをして、武雄市の歴史文化、伝統文化について学んでいるところです。

さらに、これから各地域で伝統芸能の奉納が行われる時期になってきました。

地域の方々に御指導をいただきながら、子供たちが参加して、伝統文化の伝承をする機会となっているところでございます。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／やはり伝統文化は大切だということで、理解をしております。

これは、もう、すみません。

橘町の夏休みのイベントの切り抜きでございますけれども、いろんな地区で夏祭りを行っています。

その中で、やはり浮立がメインでございますけれども、記憶に、皆さんあると思いますけど、2020年4月、コロナの緊急事態宣言がされたときに、アベノマスクも記憶にあると思いますけども、そのときに、コロナが起きたときにやはり地域の伝統行事が縮小され、直会といいますか、直会、御存じだと思いますけど、食事会、宴会ですね、それもなくなったような現状が3年間続きました。

やはり、中にはもうせんでよかよと、もうやめておこうかという声もあります。

若手も参加しないという話も聞きます。

また、今月の彼岸登りというのがあります。

彼岸ごもりという、各地区にあると思いますけども、今年ほうるう年で19日から25日の1週間、各地区で、橘町は13区あるんですけど12区で1週間、交代で浮立の奉納をします。某国会議員の先生も1週間、お参りされて、挨拶をされると、そういうようなお祭りでございますけれども、子供たちが一生懸命、また、これ上野区なんですけども、子供がたくさんいる地区は子供たちに伝統芸能を教えて、浮立を教えるということはいいいんですけども、子供がいない地区はもう衰退する一方でございます。

さあ、どうするかということで、どうしてほしいか。

ここで出てくるのが、私が毎回言っています、前武雄市の市民遺産の話ですけども、前回の去年の議会で、市は設立ということまでは考えていませんという答弁をいただきました。市長も、組織の在り方も含め、じっくりと考えさせてくださいということでしたけども、私の考え方、ちょっと質問が悪かったと思いますけれども、伝統文化というと、やっぱり歴史になるのでこれは文化課、自然観光、御船山を一番の武雄市民遺産にしたいと考えると、観光課、いろんな部署が分かれるわけなんです。

これは徳島市の例なんですけど、完全に市民遺産を分類して、市民遺産を考えておられます。前もお話ししましたけれども、市民遺産を行っている市ということで太宰府市、徳島市、宇都宮、島田市、龍ヶ崎市、太宰府市が1つ増えました。

それと、市民遺産をしようと手を挙げたところが京都の京丹後市です。

去年設立されてまして、今年、今、募集をされております。

非常に面白いです。

これも、武雄市と人口が4万7000人で同じなんです。

京丹後市は、40年前ぐらいに7万人いたのが、2万人減っていると、そういう危機感を持っておられます。

その中で、市をどうしようかということで伝統行事、いろんな文化財、観光地を市民遺産にしようということで手を挙げられて、京丹後市の市民が将来の世代に引き継いでいくために自主的に保存及び活用を行っているものに認定をするということで、手を挙げて、市民遺産をつくっておられます。

電話をしまして聞いたら、今、まだ数ははっきり分かりませんが、武雄市も頑張ってくださいというエールをいただきました。

ぜひ光を当ててほしいというか、重要文化財等にならない武雄市の重要無形文化財とか、そういうのに当たらない伝統文化、いろんなものに光を当ててほしいということで、市民遺産、これの設立を、切にお願いするところでございますけども。

最後の質問でございますけれども、市長に質問をいたしますけども、毎回、この武雄市民遺産の構想を考えているわけなんですけども、市民や地域に愛される、親しまれてきた歴史文化の資源を、地域ぐるみで継承していくため、市が認定し、保護継承する活動などを支援するものであるというのが市民遺産の目的ですので、これについて、市長から武雄市民遺産の構想をどうお考えかお聞きします。

議長／小松市長

小松市長／地域の歴史とか文化、あるいは自然、景観など、未来に向けて残していく、そして、地域づくりだとか誇りにつなげていくというのは、大変重要なことだと思っています。恐らくこの市民遺産の目的は、私なりに理解しているのは、そういった、先ほどから御説明がありました、伝統芸能とか、そういった大事な文化というのを保存して、そして、継承して未来に残していくということであったり、あるいは地元になんなものがあるんだよということで、地域の再発見をして誇りにつなげていくとか、あるいはひょっとしたら観光にもつながってくるかもしれない、そういうことだと思っています。

私たちも市民遺産について少し調べてみました、ほかのところの制度をですね。

そうすると、先ほども触れられましたけども、申請があつて、そういう委員会があつて審査をして、認定をして、そして、場合によつたら支援の補助などを行うというのが基本的なやり方だと思うんですけども、先ほど太宰府市でも、あの規模で17件ということを見ていただくと分かるように、なかなかやっぱり仕組みとしてじゃあ効果が持続するのか、どこまで広がりがあるのかということを考えると、むしろ何か一つ一つの市民活動を深く掘っていくようなところが、この遺産の結果的な効果になっているのかなというふうに思っています。今、文化のまちづくり構想とかでも、文化の保存と活用というところも触れておりますし、前回は答弁しました、武雄市とか、今あるものをもっと活用することで同様の効果は生まれてくるんじゃないかなと思っています。

したがいまして、今、市民遺産構想をすぐ実現するということは考えていないんですけども、引き続き様々な活動をされている団体の皆さんには、いろいろお話を聞いていきたいと考えております。

議長／3番 毛利議員

毛利議員／ありがとうございます。

ぜひあるものを生かす郷土愛、消えそうな光には光を差し伸べてあげる、そういうような伝統文化の継承、武雄市の市民遺産の構想を、ぜひじっくりとよく考えながら、ほかの組織も勉強しながら、ぜひ設立に向けてお願いしたいと思っています。

では、以上をもちまして令和6年の9月議会の毛利清彦の一般質問を終わらせていただきます。

以上です。

ありがとうございました。

議長／以上で、3番 毛利議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩いたします。

＊ 休憩中 ＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、13番 石橋議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

13番 石橋議員

石橋議員／皆さん、おはようございます。

議長より登壇の許可をいただきましたので、13 番 石橋敏伸の一般質問をさせていただきます。

今、モニターに映像が映っていますけれども、これは神六神社のイチヨウの木でございます。市の市報にも掲載していただきましたけども、私もちょっと宣伝をしようかなと思ってあげました。

オスメスのイチヨウの木が、オスのほうが全周 5 メーター 300 ございました。

メスのイチヨウの木が約 3 メーター、直径でいきますと、オスのほうが 1,800、メスのほうが 1 メーターぐらいで、円周率、大体***だろうと思っております。

昔から言われていましたけども、オスとメスのイチヨウの木がないと実はならないと、昔の人からずっと聞いてきましたけれども、今は品種改良していただいて、毎年なるよと、イチヨウの木があります。

これは、2 年に 1 回、たくさんなります。

粒は小さいですけれども、今、神六区民の財産ですけれども、ほとんど銀杏を拾う人がいないので、市民の方、議員の皆さん方、よかったら拾いに来ていただいて、少しは手もかぶれるかもしれませんが、中身は銀杏でございますので、おいしい銀杏が取れると思います。

前置きはこのくらいにして、次に移らせていただきます。

1 つ目、道路行政について、2 番目に消防団について、3 番目、学校施設についてをお尋ねいたしたいと思います。

来月の、10 月の S A G A 2024 国スポ・全障スポの会場が武雄市にもございます。

地元、西川登町のゴルフ場周辺の市道の舗装、補修が行われていたのを確認いたしました。

ほかの会場周辺の市道についても多くの来場者が予定されるために、開催に合わせての市道の環境整備は行っているのかお聞きをいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／議員御質問の各会場周辺の環境整備の状況であります。女子ゴルフが開催されます武雄・嬉野カントリークラブ周辺、成年男子ゴルフが開催されます若木ゴルフクラブ周辺、軟式野球が開催されます武雄市民球場であります、ひぜんスタジアム周辺の市道におきまして、補修修繕や区画線の更新、のり面補修などを実施しております。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／今、モニターに出しておりますけれども、舗装、左手の映像が、まだ中央線、区画線が引いていなかったんですけども、今朝確認して行きましたら、しっかりと区画線もはってありました。

本当、ありがとうございました。

それと、県道のほうも西川登公民館前の 150 メーターぐらいは今度の国体に合わせての舗装工事がなされるとお聞きしましたので、本当にあそこのフリーク（？）、段々がひどくて、公民館の中におってもがたんがたんいうぐらいの舗装道路でありますので、今回それに併せてしてくださるということで感謝を申し上げたいと思っております。

次に、自転車競技が開催される武雄競輪場周辺の市道についてでございますが、北永野四十九重線では、7月の大雨の際に倒木があったと聞いております。

先日の台風 10 号、倒木のおそれがあります 8 月 28 日から通行止めの措置がされていたが、この路線の支障木伐採等の対応はどうなるのか、予定をお願いいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／御質問の市道、永野四十九重線の支障木伐採につきましては、現在、伐採準備を進めており、国スポ開催までに伐採を完了したいと考えております。

なお、他の開催周辺につきましても、国スポ開催までに市道のり面の伐採や除草作業を実施してまいります。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／私も武雄に来るときには、ほぼあの道路を利用させていただいておりますが、樹木が道路中央まで出てきて、半アーケードみたいな感じで、道路中央部までぐらい、今、写真で見られて、左側分かりますと思いますが、ほぼ中央部までぐらいまでかぶっております。

大型車等がもし通るときには、本当にオーバーランして、路線変更して通行しないといけなかなというぐらいの樹木がかぶっておりますので、本当に今、部長のおっしゃったとおりに、国体までに間に合わせるということでもありますので、ありがたく思っております。

今回の質問は、この会場周辺とはいいますが、市内の市道とか歩道のあるところ、覆いかぶって自転車に乗った子供たちが頭を打つぐらいの、そういったところもございますので、巡回するなり、何かしていただいて、そういったところを早く伐採等を、本当を言えば、地主のほうかせないかんというところがございますが、今、高齢者社会になってもうて、できる人もいるだろうし、若い人が地主であれば何とかなるかもしれませんが、そういったことも鑑みて、やっていただきたいなと思っております。

次に、都市計画道路について、お尋ねがございます。

都市計画道路の多くは、戦後の高度成長期を背景として、市街地を拡大していく、また、産業がますます発展していくなどといった社会情勢を続けていくことを前提として都市計画を決定されているものと思います。

武雄市でも、そのような理由で決定した都市計画道路、複数あります。

社会情勢の変化などに伴って、長期間、事業に着手できない路線が存在しているため、令和4年に見直しが行われております。

見直しにより、計画を存続する線路や廃止する路線が決定されておりますが、計画を存続とした路線の事業進捗状況をお尋ねいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／先ほどの答弁の中で、私が北永野四十九重線を、永野四十九重線と表現いたしました。

訂正してお詫び申し上げます。

申し訳ございませんでした。

モニターをお願いいたします。

令和4年3月に、30年以上にわたり事業に着手できていない都市計画道路の見直しを実施しております。

都市計画マスタープランなどの上位関連計画や通学路、バス路線への位置づけ、都市計画事業との連続性、公共施設へのアクセス性、見直し後の交通量などを総合的に評価した上で、都市計画道路24路線中、市が事業を行う路線として、モニターにお示ししていますように、向かって右側から永松八並線、八並六ノ角線、内町御船山線、内町迎田線、城内・竹下線の5路線を存続としております。

議員御質問の事業進捗状況でございますが、事業着手の優先性を検討した結果、区画整備事業からの連続性、赤穂山トンネルから市街地へ下ってまいります県道、武雄伊万里線の渋滞緩和にもつながるとの判断から、永松八並線の事業化を最優先とし、現在は地元との協議を実施しているところでございます。

議長／13番 石橋議員

石橋議員／見直しによって、内町迎田線も計画を存続されておりますが、山崎鮮魚店の北側から楼門を通過して国道34号線までの都市計画道路ですが、山崎鮮魚店北側から楼門手前までの区画が未整備となっております。

市民の方から、いつから整備を行ってもらうかと聞いてくれということでありましたので、この内町迎田線はいつから事業が進められるのかお尋ねをいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／内町迎田線は、市街地の南北の補助幹線道路として、武雄温泉駅から武雄温泉街への回遊性向上を図るためには重要な路線であると認識しております。

議員御質問の事業着手の時期でございますが、先ほど申しました永松八並線の事業化に向けて、地元協議を行っているところであり、内町迎田線の事業実施はまだ未定でございます。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／実施期間は未定ということですが、内町迎田線の未整備区間は道路幅が狭く、本当に離合するのにも難儀するところでもありますので、観光客が楼門まで車で行くにも不便であります。

事業化に向けて、ぜひ早期に着手してほしいと思っております。

よろしく願いをいたします。

2 番目に、消防団についてということで御質問をさせていただきます。

部の統廃合について。

2 番目に、支援団員についてを、お尋ねをいたしたいと思います。

消防団員は年々減少していると感じていますが、団員数の推移についてお示しいただければと思います。

議長／黒尾総務部理事

黒尾総務部理事／おはようございます。

スライドをお願いいたします。

グラフを御覧ください。

平成 27 年度から 10 年間の消防団員数をお示ししております。

1,400 人台で推移しておりましたが、平成 30 年度をピークに減少傾向となり、令和 3 年度からは 1,300 人台、令和 6 年度は 1,200 人台となっております。

団員募集の看板の設置や、消防イベントでの募集チラシの配布、佐賀県とテレビや新聞などを活用した P R に取り組んでまいっておりますが、ピーク時の平成 30 年度から今年までの 6 年間で 180 人の減少となっております。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／ありがとうございます。

年々減少していると見れますが、団員募集にも取り組まれているようですが、そもそも人口も減少しております。

団員数の維持は困難であると思われます。

消防団の力の一つは、動員力ともいわれてきたが、数の力に頼ることができなくなると考えておりますが、部の統廃合を行い、人員の集約や効率的な組織運営が必要だと思っておりますが、どのようにお考えですか。

お尋ねいたします。

議長／黒尾総務部理事

黒尾総務部理事／消防団では、平成 30 年度に組織再編検討委員会を立ち上げまして、定員や火災対応、部の統廃合などについて検討を開始しています。

この中で、部の定員が 10 名以下になれば、統廃合の検討を開始することが決まりました。

市としましては、実際の部の統合には時間がかかることや、団員の減少が著しいことなどを鑑み、令和 5 年度から各町単位で、現状と統合する場合のイメージなどをより具体的に分団幹部と意見交換を開始しているところでございます。

消防団は安全・安心にかかせない組織であるため、消防団とともに出動態勢のさらなる見直しや訓練等の負担軽減に取り組み、効率的かつ効果的な組織体制に向け、引き続き検討を進めてまいります。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／ここの議員の皆さん方、消防団、分団長さんと、いろいろいらっしゃると思います。

検討を開始しているというのですが、統廃合の検討や調査に時間がかかると思っております。未来を見据えて、早め早めに進めていただきたいと思います。

周辺ばかりではないでしょうけれども、若者がほとんどいないという状態であります。

そこら辺も加味して、早目にそういったことで段取りをお願いしたいと思っております。

2 番目に、支援団員についてお尋ねをいたします。

支援団員については、どのような団員であるのか。

また、現在の人数について説明をお願いします。

議長／黒尾総務部理事

黒尾総務部理事／支援団員は、平成 19 年度から開始しました制度でございまして、消火活動、救助活動、水防活動などの災害時の出動が主な任務でございます。

支援団員になるための条件は、団員としての経験が 10 年以上、またはこれに準ずる経験を有していると認められる者で、年齢は 65 歳以下の者となっております。

支援団員は、機能別消防団員として、火災などの災害時の出動を基本といたしまして、訓練などの出動は求めておらず、令和 6 年度現在の支援団員数は 99 名となっております。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／災害活動に特化した機能別分団で、昼間の火災等の対応を担う、先ほどの団員減少とも関係しますが、日中は特に仕事等で地元を離れた基本団員が少ないのが現状であります。

そこで、現在 65 歳となっている支援団員の年齢制限の引き上げはできないものか、お伺いをいたします。

議長／黒尾総務部理事

黒尾総務部理事／災害時の現場は身体的負担も大きいため、慎重に検討すべき点もあります。消防団の意見や他消防団の状況などを調査しながら検討してまいります。

議長／13 番 石橋議員

石橋議員／定年も今、60 から 65 歳へ引き上げられています。

60 歳代はまだまだ元気な方が多く見受けられますが、ぜひ年齢制限の引き上げについて、前向きに進めていただきたいと思います。

消防団という存在は火災や風水害への対応など、市民の安全・安心のためにはなくてはならないと思っております。

部の統廃合や団員の負担軽減、支援団員の年齢引き上げなど、団員の確保にも努めていただきながら、効果的な、効率的な組織にしていきたいと思いますと思っております。

地域の安全・安心を守っていただきたいと思いますと思っております。

この写真は、先日、9月1日の防災訓練の中で、これは西川登小の体育館のほうから自衛隊車に20名ずつ乗って、体育館まで移動させていただきました。

この中で、これ、めったに乗られんけん、絶対乗せてくださいと。

60名でしたので、行きと帰りどちらかですね、乗っていただくことを計画させていただきましたけども、させていただきましたけどもって、私がしたんじゃないんですけど、そういった形で乗っていただきました。

イスの硬かったものとかですね、本当に自衛隊さんの、ここ、西川登から武雄の体育館まで来るのに20分から30分でしょうけれども、自衛隊さんたちが実際に乗って何十キロとか移動されたとき、本当に大変な自衛隊さんだろうと、今、任務がそうだろうと思っております。

この体育館の中では、ベッドづくりとか、いろんな経験をさせていただきました。

本当に川登地区が、防災訓練の2地区が参加をさせていただいて、講評はよかったと思っております。

こんなベッドづくりとか、そういったことがなかとが一番よかとでしょうけども、万が一、そういったときには町民の皆さんのお手を借りながら、避難場所で活躍していただきたいなと思っております。

3番目に、学校施設についてお尋ねをいたします。

昨年3月の定例会一般質問の中で、民間委託後の西川登小学校プールの活用方法について質問をいたしました。

答弁では、プール施設の活用方法は現時点では特に考えていないということでありました。学校施設の利活用、児童の環境面において考えていく必要があると思いますので、質問をいたします。

まず、令和4年度からスタートしたプール事業の民間委託では、現在何校で実施されているのか、お伺いをいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／おはようございます。

議員御質問のプールの民間委託でございますが、西川登、東川登、若木、武内小学校の4校で、現在、民間のプールを活用した委託事業を行っております。

議長／13番 石橋議員

石橋議員／今、御説明ありましたけども、4校で民間のプールを活用している状況で、この

4校については、各学校プールを使用されていない状態だと思いますが、どのような管理をされているのか、お伺いをいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／委託を行っている4校のプールにつきましては、現在使用をしておりません。

そのため、子供たちも立ち入りができないような形で施錠をしており、定期的に目視等による点検、管理を行っている状況でございます。

議長／13番 石橋議員

石橋議員／長く使用していないプールは、水を張ったまま何もしない状態では害虫等が発生し、環境的によくないのではないかと思いますし、何より、せっかくの学校施設の中の児童のための、地域のために有効に活用すべきと考えているところです。

今後の利活用等について、どう考えていらっしゃるか、お伺いをいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／プールの活用でございますが、現在のところ、特に別用途での使用、また解体等については考えておりません。

学校や地域から具体的な御提案があれば、活用については一緒に考えていきたいと考えています。

議長／13番 石橋議員

石橋議員／今のところは考えていないということですが、今、モニターに出ていますが、小プールのほうの色がやっぱり、どうしても、水の張りが浅いということで、***じゃないかなでしょうけども、色が変わっております。

大プールのほうはまだ澄んではいますけども、今年の夏は暑かったのが幸いしたのかなと思っておりますが、皆さんたちどがん思われとるか分かりませんが、害虫、蚊が少ないなど。あんまり暑かったけん、蚊も飛びきらんやったのかなと思うぐらいの、ありました。

でも、こうした学校施設の中で何か、やっぱり行政のほうから町民、まちづくりとか、いろんな方々に、学校ももちろんでしょうけども、そういった話を逆に持っていったらと、

町民が先に、町が先に来るじゃなくして、学校教育のほうから話しを持っていってもらうのも一つの案じゃなかろうかと思っておるところです。

今度、最後になりますが、この許可はいただいて、今、西川登町の庭木地区のほうに横断幕を掲げている、今度、全障スポで中村莞乃さんが国体、国スポに参加をされます。

去年は鹿児島だったので、去年は 50 メートル自由形、50 メートル平泳ぎを、金メダルでありました。

その前の年は、栃木で銅メダルと聞いておりましたが、今回も、地元佐賀ですので、一生懸命頑張ってくれると思っておりますので、皆さん方の御声援をよろしくお願いを申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長／以上で、13 番 石橋議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5 分程度休憩いたします。

＊ 休憩中 ＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1 番 古賀議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

1 番 古賀議員

古賀議員／Good morning, everyone. With the chairman's permission, I will now start my presentation for the general inquiries. I like to begin my time in English to highlight the diversity of people living in our community. I want everyone who lives here to feel welcome and included.

皆さんおはようございます。

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、1 番古賀珠理の一般質問を始めます。

先月、8 月 24、25 日は、SAGA2024 国民スポーツ大会公開競技エアロビックが、ケーブルワン・スポーツパークで開催されました。

エアロビック競技は、国民スポーツ大会の公開競技として初めて武雄の地で実施されました。佐賀県エアロビック連盟の皆さん、スポーツ課の職員や関係者の方々の御尽力の下、大会は

大成功の元に幕を閉じました。

本当にお疲れさまでした。

来月は、いよいよ SAGA2024 国スポ・全障スポ総合開会式が開催されます。

約 50 年に一度の大会が大盛況になることを心より祈念いたします。

さて、本日は 3 つの大項目の下、一般質問を始めてまいります。

では、早速、女性の活躍について始めてまいります。

6 月 12 日に世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数を御覧ください。

この報告書は、各国の男女格差を経済、教育、健康、政治の 4 分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数にしています。

日本は 146 か国中、118 位。

ちなみに、2022 年、116 位、2023 年、125 位となっています。

グラフを見ても分かりますように、政治、経済分野で低い水準となっています。

政治分野におけるジェンダー・ギャップ指数は、主に国会議員についてのデータになりますが、ここで佐賀県内市町の女性議員の比率を御覧ください。

県内議員総数 369 人中、女性議員は 51 人、全体の 13.8%にとどまっています。

経済分野におけるジェンダー・ギャップ指数の中の項目の一つである女性管理職比率は 130 位ということですが、労働政策研究・研修機構の調査を基に厚生労働省が作成した日本全国の企業における管理職に占める女性の割合は、2022 年のデータによると、12.7%となっています。

では、ここで武雄市の令和 6 年度の女性職員、管理職の比率をお伺いいたします。

さらに、目標値を掲げているのかどうかについても併せてお伺いいたします。

議長／秋月総務部長

秋月総務部長／おはようございます。

今、議員お尋ねの、市役所の女性管理職員の比率についてですけれども、令和 6 年 4 月 1 日現在で、管理職における女性職員の割合は 20%となっております。

また、目標値についてですけれども、武雄市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画において、管理職における女性職員の割合の目標を令和 7 年度末で 25%と設定しております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／武雄市も年々、女性管理職の比率が向上しているということで、あらゆる分野に

おける政策、方針決定過程への女性参画の推進が行われていることが分かりました。

目標値に向けて、これからも取り組んでほしいと思います。

では、質問を続けてまいります。

地方自治法（第 180 条の 5）に基づく委員会、そして、行政の附属機関、附属機関外の様々な審議会等における女性の登用状況についてお伺いいたします。

さらに、武雄市では、女性委員の割合の目標値も掲げているのかどうかについても併せてお伺いいたします。

議長／秋月総務部長

秋月総務部長／モニターをお願いします。

まず、表上段の、地方自治法（第 180 条の 5）に基づく委員会の委員数についてですが、改選後、変更が生じたものにつきまして御説明申し上げます。

教育委員会ですが、委員の定数を法定数とするために市条例を廃止したことにより、令和 6 年 2 月から委員数が 9 名から 4 名になり、女性委員数も 4 名から 1 名へと変わり、割合が減少しております。

また、農業委員会ですが、今年 7 月の改選で、女性委員は 2 名から 4 名に倍増しております。

しかし、割合としては 1 割に満たない状況でございます。

次に、表下段に、その他の審議会・委員会等の委員数の抜粋したものについて御説明を申し上げます。

表に記載の審議会・委員会等の女性委員数は、一定の数の減少はあるものの、女性の割合はおおむね 2 から 3 割を維持しており、5 割を超えたものもあります。

全体としましては、令和 5 年度末の各種審議会・委員会等の女性の登用状況は 34.9%で、令和 4 年度末の 35.4%と比較すると 0.5%減少しております。

登用状況の目標値についてですが、令和 5 年 3 月策定の第 4 次武雄市男女共同参画推進計画において、令和 9 年度目標値を 40%以上としております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／各種審議会や協議会、委員会によって、女性の登用に隔たりがあるのは、その組織の性質によるものだと思いますが、男女に隔たりなく、希望に応じた登用や配置をするための体制づくりは、これからも積極的に行っていかなければならないものだと思います。

では、武雄市における女性の登用状況について、市のホームページ等で公表されているのかどうかについてお伺いいたします。

議長／秋月総務部長

秋月総務部長／登用状況等についての公表についてでございます。

現在、市のホームページ等での公表はしておりませんが、毎年度、審議会・委員会等における女性の参画状況について県に報告をしております。

その中で目標値を含め、県から公表されている状況でございます。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／私は、ホームページや市報で公表することは、私たちの意識づけに役立つと思います。

県内2つの自治体をピックアップしました。

唐津市と小城市のホームページですが、毎年度、数値を更新され、誰でもいつでも女性の参画値を見ることができます。

女性の登用を可視化することは、現状を把握でき、課題に対して気づきが得やすくなり、共通認識を持ちやすくなると思いますので、ぜひ公表してほしいと思います。

武雄市は2017年2月14日に県内、自治体初のイクボス宣言をされました。

市長、武雄市全管理職、職員の皆様がワークライフバランスの実現に向けて、育児や介護の支援制度を理解し、それを活用する職員を手助けすることなどを率先して実践することを宣言されています。

その当時の管理職の方々に、御退職されている方もいらっしゃいますが、今なお引き続き実践されていることだと思います。

行政が率先して、先頭を切って、女性の活躍に取り組む。

女性が活躍できる環境をつくることは、男性の育児休暇や介護休暇の取得を伸ばすことにもつながると思います。

少子化や働き方改革の進展、女性の社会進出、ジェンダー平等への意識の高まりは、病児・病後児保育の充実につながると思います。

もちろん、病児・病後児保育について様々な意見があります。

また、男性は仕事、女性は家庭という考え方が主流だった時代の名残として、女性が子供たちの世話をするのが当たり前だという風潮が今なお残っているのも現状です。

子供の立場になって考えてみたらどうだという意見もあります。

そのような中、核家族が増え、共働き世帯が主流の昨今、どうしても仕事や急用等で子供のそばにいてあげることができないなど、社会的にやむを得ない理由で家庭保育ができない保

護者のために、そのバックアップとして、病児・病後児保育の環境整備や拡大、充実をはかっていくことが必要だと思います。

子供の看護が続いても社会や会社や組織の理解が得られる環境で働かれている保護者ばかりではないのが現実です。

さて、現在、武雄市には病児・病後児保育施設「テトテ」がありますが、利用者の近年の状況についてお伺いいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／モニターをお願いいたします。

病児・病後児保育施設「テトテ」の利用状況でございますが、コロナのときには若干影響で利用者は減っておりますけれども、それ以降、令和3年度から429名、4年度で482名、令和5年度は675名ということで、年々増加の傾向でございます。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／年々利用者の増加があるということが分かりました。

では、過去にテトテを利用しようとして定員オーバーだったり、利用できなかったことがあったのかどうかについてお伺いいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／このテトテでございますが、定員が6名でございますが、定員に達したために利用をお断りするということがあった月も数件はございます。

ただ、お断りをした場合は、翌日は優先的に受け入れるなどの調整を行っているところでございます。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／やはり病気というのが一斉に広がることや預けることができない病気等もありますので、そういったところも利用不可が出たということもあるのかなというふうに思います。私は、利用者の増加や定員オーバーが実際にあったこと、さらには、地域偏在の解消のために北方町、山内町にもそれぞれ病児・病後児保育ができる施設を増やすことが必要だと思いますが、これについて市の見解をお願いいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／このテトテの開所日のうちに、3名以下の利用となる日が全体の7割以上を占めております。

また、利用者がゼロという日も1割程度あるということで、確かに定員を超える日も数日はあったということでございますが、全体を考えて、利用者数としては、まだそこまで多くないということで、現時点で施設を増やすということまでは考えておりません。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／テトテの利用対象者は武雄市、伊万里市、鹿島市、多久市、嬉野市、大町町、有田町、白石町と広域にわたります。

これから先、有田町や嬉野町で開園されている病児・病後児保育の施設で利用ができるようにつなげてみるなど、広域で利用できる場所を拡大していくことも視野に入れてほしいと思います。

それでは、子供のこども園入所について進めてまいります。

これも女性の社会進出に深く関わっています。

今、たくさんの幼稚園がこども園に移行されているのは、女性の社会進出等に伴って、子供を預かってくれる時間が短く、長期の休暇がある幼稚園の入園児が減少したからです。

さて、このような時代のニーズに合わせて、園の環境も変化しているわけですが、時々、お母さんたちとの井戸端会議でいろんな声が聞こえてきます。

では、きょうだいで別々の園に通っている子供たちがどの程度いるのかお伺いいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／御きょうだいで別々の園に通っておられる御家族については、現在7家族ございます。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／数が少ないとしても、別々の園に送迎する保護者、送迎する7から8割は母親だと見受けられますが、特に朝の時間は大変でしょう。

雨の日、子供の感情が不安定な日、保護者が自らの希望で別々の園にきょうだいを通して

いると思うのではなくて、どうしてそういうチョイスしかできなかったのかを知ることが必要だと思います。

わざわざ進んで、きょうだいを別々の園に通わせたい親は居ないと思います。

こども家庭庁が 2023 年 9 月 1 日に出した保育所等関連状況の中の全国待機児童マップを御覧ください。

地図を見ますと、東京や神奈川など、関東圏、大阪や兵庫などの関西圏、沖縄で待機児童が多く見られます。

では、佐賀県はといいますと、24 人います。

このような中で、武雄市におけるこども園の入所率についてお伺いいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／武雄市の教育保育提供区域というものがございまして、これは、市全域を 1 つの区域、1 区域として設定をされております。

武雄市では、待機児童は現在おりません。

このことから入所率につきましては、100%となっております。

ただし、希望する園に全ての方が入所できるという状況ではございません。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／待機児童ゼロでも、待機児童にしたくないという切迫感から、全く希望していなかった園に通園させるケースは本当に多いです。

ここもなるべく保護者の希望に添えるように考慮してほしいと思います。

令和 8 年度には、こども誰でも通園制度が始まります。

また、武雄市デジタルトランスフォーメーション推進計画アクションプランの中に、保育所入所選考における A I の活用を掲げられていますが、同年に運用開始が予定されています。

D X を使って、様々な事象に対応できるシステムの構築をお願いいたします。

では、最後に、市長、女性が活躍できるまちづくり、社会づくりを、武雄市はどのようにこれから推進していくのか、市長の思い描いているビジョンについてお伺いいたします。

議長／小松市長

小松市長／時代が変わって、核家族が増えています。

ワンオペという言葉も、よくないですが、当たり前になってきているような感じで、頼る家

族や親戚もいないということで、誰かが家庭で病気になれば、途端に家庭が回らなくなるというような状況も出ています。

昔、武雄への移住希望者の母親の方と話をしたときに、やっぱり病児保育があるのは、もう、ある意味、これからスタンダードですよという話も聞きました。

やはり、どんな家庭環境であっても、安心して子育てできるようなまちにするというのが、まず必要だというふうに思っています。

それで、病児保育もスタートし、365 日の小児時間外医療と休日医療も何とか達成をしたということでもあります。

これからは女性に選ばれるまちにするというのが、必ず求められる時代だと思っています。男性の育児参加とか、今年も取り組んでいますけれども、あとは育休の取得推進、あるいは先ほどありました役員への登用とか、そういったのを一つの企業とか事業所だけではなくて、地域や事業所、全体を巻き込んで進めていくのが大事だと、それによって、ジェンダーギャップも解消していくというのが、まさにこれからさらに求められていると思っています。そういう意味で、これまで以上に攻めの男女参画政策を進めていく必要があると思いますので、ぜひ、ここは力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／うれしいお言葉、ありがとうございました。

それでは、熱中症対策について、進めてまいります。

夏日、真夏日、猛暑日という言葉は、初夏が過ぎた頃からよく聞くようになりますが、夏日はその日の最高気温が 25 度以上、一方、真夏日は最高気温が 30 度以上を達する日、猛暑日は最高気温が 35 度以上の日のことを指します。

地球温暖化の影響で、35 度以上の日が増えたことから、気象庁は 2007 年 4 月に猛暑日を予報用語に追加しました。

猛暑日と聞けば、福岡県太宰府市は、この夏、最高気温が 35 度以上の猛暑日が 40 日続き、国内最長記録を大幅に更新いたしました。

地球温暖化により、真夏日や猛暑日が続く日が年々多くなっている中で、熱中症による救急搬送が増加しているのではないかと思います、杵藤消防署本部に直接状況をお伺いしました。

スライドを御覧ください。

過去 3 年分の 6 月、7 月、8 月のデータを表にしました。

過去 3 年の熱中症による救急搬送は、今年の 8 月が断トツで多くなっています。

また、7 月、8 月の数は年々増加しています。

さて、令和 6 年 4 月 1 日より、熱中症対策の強化を盛り込んだ改正気候変動適応法が全面施

行されました。

これに伴って、全国暑さをしのげる場所としてクーリングシェルターが設置され、また、市町独自の熱中症予防休憩所を設置されております。

クーリングシェルターとは、法に基づき指定され、あらかじめ公開された施設の開放期間に限り、熱中症特別警戒情報が発表された場合に開放を義務づけられる施設のことであり、佐賀県内には 140 施設あります。

また、熱中症予防休憩所とは法に基づかず、市町で独自に設置され、熱中症予防警戒情報が発表された際の施設開放の義務はないということで、県内には 86 施設あります。

武雄市には 22 の熱中症予防避難所、クーリングシェルターがありますが、この施設の利用状況についてお伺いいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／おはようございます。

現在、たけおひんやりスポットは、今、議員おっしゃいましたように、クーリングシェルターと、あと熱中症予防休憩所、合わせて市内に 23 施設ございますが、そのうち正規職員が常駐しております各町公民館と子育て総合支援センターの 9 か所で利用者数の統計を取っております。

月ごとの利用状況ですが、令和 6 年 5 月が 5 名、6 月が 13 名、7 月が 202 名、8 月が 287 名となっております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／武雄市役所の 1 階のホール棟などは、利用されている方がどのような理由で来館されているかというのは把握できないのが現状ですし、カウントも難しいかもしれません。

また、公民館によってはたくさんの子供たちが利用しているケースがあるようです。

まちの公民館というのは、地元の方がサークル活動や会議などでひっきりなしに来館されます。

そんな中で、ふだんから利用されている方から、ひんやりスポットの利用者の公民館利用についてクレームが来るようなことがないように、最低限のクーリングスポットについてのルールが市側で指定された施設に申し伝えることが必要ではないかと、そのように思います。

さて、県のホームページで公表されているデータによると、県内にはクーリングシェルターが 140 施設あります。

私は 20 市町で成り立つ佐賀県に、140 のシェルターがある中で武雄市は 1 つ、県内に 86 の

熱中症予防避難所、武雄市はクーリングスポットですが、それが 22 ある。

自治体によって、それぞれの基準で指定しているものだと思いますが、武雄市の場合、どのようにしてクーリングシェルターと予防避難所を区別したのかをお伺いいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターですが、そこにつきましては、備えるべき基準が改正気候変動適応法で定められておりまして、大きく 4 つの条件が提示されております。

まず、1 つ目は、適当な冷房施設を有すること。

2 つ目は、熱中症特別警戒情報が発表されたときは施設を開放することができること。

3 つ目は、必要かつ適切な空間を確保すること。

4 つ目は、施設名、所在地、開放可能日、受入れ見込み数を公表することとなっております。

熱中症特別警戒アラート発表時には、この指定暑熱避難施設については、施設の開放義務があり、受入れ見込み人数を事前に公表する必要があることから、武雄市役所の 1 階のホールの 1 か所を指定しております。

あと、熱中症予防休憩所につきましては、特別警戒アラート発表時に、先ほどの基準を満たすことができない各町の公民館や民間の施設など 22 か所を指定しております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／開設するには、施設の理解も得ないといけませんので、市で精査して区別されたことが分かりました。

これから先、地球温暖化が進む中、熱中症対策のためにもひんやりスポットを増やす取組をしていかなければならないと思いますが、市としての見解をお願いいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／たけおひんやりスポットにつきましては、6 月に市報や武雄市のホームページへ掲載、そして 7 月にもチラシを全戸配布し、同時に、協力施設を募集しておりました。その結果、市内 4 か所の施設から御協力の申出をいただきまして、現在は 23 か所を指定しているところです。

今後は、地域の身近な民間施設などにも協力を得まして、さらにスポット数を増やしていきたいよう努力していきたいと考えております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／子供たちを見守ってくれるような場所、また、高齢者も安心して過ごせる場所、ひんやりスポットが見守りスポットにもなるような施設がどんどん増えたらいいなというふうに思います。

それでは、市内中学校の部活動の熱中症対策について進めてまいります。

昨年、部活動の帰宅における生徒の熱中症による死亡が発生いたしました。

心から御冥福をお祈りいたしますが、このようなことが二度と起こらないように、国ではガイドライン等がつくられています。

熱中症対策について、教育委員会から各市内中学校へのお知らせ等、行われているのかどうかについてお伺いいたします。

議長／松尾教育長

松尾教育長／学校教育活動における熱中症の事故の防止ということについては、それぞれの期間から通知文、お知らせ等が来ておりまして、例えば国のほうからは、今年の5月22日付で令和6年度における熱中症対策についてが発出されております。

県からは、国よりも先に5月2日付で学校教育活動等における熱中症事故の防止についてという通知文が出ているところです。

武雄市教育委員会としても、その都度小中学校に送付をしておりまして、指導、あるいはお願い等を行っているところです。

また、教育委員会としまして、今年4月から導入されております熱中症特別警戒アラートについてを周知をしまして、各学校では午前中とか、あるいは昼休み前とかに定期的に暑さ指数を確認をいたしまして、熱中症の予防に対する徹底、あるいは対応をしているところでございます。

中学校の部活動についても、同様な対応をしているところでございます。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／対策を学校に任せるのではなくて、武雄市独自の熱中症予防のために取り組むべき事項などを統一して設けるべきだと思います。

学校が思い思いに生徒を思って対策するのは、学校によってむらができます。

ぜひ、国や県から下りてきたお知らせ等を伝えるだけではなくて、どの学校も実践できる熱

中症対策を統一化してほしいと思います。

学校の夏休み中、母校の武雄中学校の部活動の見学に行って来ました。

見学許可を得るために玄関に入ると、部活動の実施状況の黒板がありました。

7時半から部活動が開始されているということに、まず驚きました。

部活動担当の先生方も7時半に来られ、スライド勤務をされているということでした。

見学許可を得て、後輩たちがいる女子ソフトボールの練習場に向かう途中、野球部の前を通りかかりました。

そこには暑さ指数を測る機器が置いてあり、常に指数を知れる状況でした。

用具室には、熱中症対策のタブレットなどが常備されておりました。

30分から1時間で休憩を取り、暑さ指数によっては、校内放送で部活動中止を知らされてすぐに帰宅しなければならない子供たちの現状があるということを聞いて、本当に不憫でなりませんでした。

さて、市内中学校の部活動の熱中症対策に特化した予算があるのかどうかについてお伺いいたします。

議長／松尾教育長

松尾教育長／議員お尋ねの熱中症対策に特化した予算のことですが、熱中症対策としては暑さ指数の測定機器等の物品は学校予算の中で必要に応じて購入をしているところがございます。

また、部活動等で飲みます飲料水、あるいは塩タブレットなどの購入については、保護者会のほうで準備していただいたり、生徒自身が準備しているというような状況でございます。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／暑さ指数を測れる機器の購入費、部活動によってですね、それは、スポーツドリンクやタブレットなど、熱中症対策に使う備品の購入を部費に頼ることなく予算をつけることが、子供たちの安全で健全な部活動を支え、見守る体制づくりになることには必要だと思います。

ぜひ、ご検討のほうをよろしく願いいたします。

では、全天候型こどもの遊び場について進めてまいります。

夏場は公園に行っても暑くて遊具が使えない。

雨が降ったら、公園で遊べない。

冬場は寒くて外で遊べない。

小さい子を持つパパ、ママから届く悲痛の声があります。

私も子育てをする母として、ぜひぜひ、武雄市でも考えてほしいのが、全天候型のこどもの遊び場です。

子供には食欲や睡眠欲と同じように、本能的活動欲求があります。

運動することでストレスを発散し、心に安らぎと集中力をもたらすといわれています。

暑いから、雨が降っているから、寒いからといって、ずっと部屋の中で過ごさせると、子供たちはイライラしはじめ、親もイライラが伝染して、せっかくの週末が台無しになります。

全国には、自治体がまちづくりの一環として取り組んでいる全天候型のこどもの遊び場がどんどん増えています。

2022 年 10 月に、長崎市であぐりドームがオープンしました。

また、2025 年春に、新潟県燕市に、ハレラテつばめがオープン予定です。

さて、ここで全国の競輪場についてのスライドをごらんください。

全国には 43 の競輪場がありますが、競輪場と全天候型の遊び場の因果関係が不明だと思われる方もいらっしゃるかもしれません。

なぜ、ここに注目したかというと、唐津市には唐津ボートの建物の中に子供の遊び場があるからです。

暑い夏に県内にどこか気軽に、お手軽に、お手頃に利用できる子供の遊び場がないかと検索していたときに見つけた、公営競技場内にある、親子をターゲットとした子供の遊び場があることをヒントに、ならば、子供を連れて遊べる施設を併設した競輪場が全国にないかと思いました。

私は、43 の競輪場のホームページを全てチェックをいたしました。

京都向日町競輪場の BMX パーク、川崎競輪場の BMX とスケートボード場を備えた川崎競輪パーク。

広島競輪場、名古屋競輪場も子供を連れて遊べる施設を盛り込んで、近年オープン予定です。

このような動きの背景には、公営競技のファンの高齢化があり、ネット投票の浸透で売上は回復しているけれども、来場者が減少していることにあるということです。

売上を伸ばし、競輪事業を継続していくには、新規ファンの開拓、地域密着型の競輪施設を進めることが必要になってくると思います。

武雄競輪場には、武雄競輪場公園、BMX ミニコースが 2018 年にオープンしました。

気候のいい日には、たくさんの子供が利用しています。

しかし、外の公園利用は天候に左右されます。

そこで、モーヴィからつのように、親子が競輪場内で競輪を見ながら楽しめる子供の遊び場ができないかと考えましたが、市の見解をお願いいたします。

議長／佐々木営業部理事

佐々木営業部理事／おはようございます。

議員から御紹介いただきましたように、競輪場には子供の遊び場として、屋外のほうに公園を整備しておるところでございます。

昨年度から今年度初めにかけて、遊具エリアに人工芝をしき、また、BMXのミニコースの改修も行い、リニューアルをしたところでございます。

家族で競輪を楽しんでいただけるように、メインスタンドをリニューアルした際には、室内にキッズルームを設けさせていただいている状況でございます。

競輪場内でお客様エリアの施設改修については完了をしておるところで、改めて全天候型の遊び場を整備する計画はございません。

議長／小松市長

小松市長／全天候型のこどもの遊び場ということで、武雄市にはなかなかないねというような感じに捉えられるかもしれませんが、全体を見ると、例えば、武雄市のこども図書館は、先ほど燕三条でしたっけ、燕市か三条市とかで新しい施設ができたということがあるんですけども、武雄市には、ほかにない、武雄市のこども図書館というのがあります。

これはやはり夏に公園では遊べない、だけども、遊ぶだけではなくて、一緒に学べる場所もできたらいいなという声もあって、こども図書館というのができました。

御承知のとおり、こども図書館は入ると広いスペースになっていますので、いろんな遊び方ができるんじゃないかというふうに思っています。

また、最近だとケーブルワン・スポーツパークを夏の暑いときに、1日、子供たちに開放しようという試みもしました。

結局、台風が来たか何かで、その日は開けられなかったんですけども。

また、公民館もぜひ子供も一緒に遊びに来てくださいという話もしています。

そういった、今あるものをぜひ子供たちにも、暑い夏でも体を動かしてもらえるように、今後も工夫をして、そういった全天候型の遊び場にもなるような環境を、さらに拡大をしていきたいと考えております。

議長／1番 古賀議員

古賀議員／ありがとうございました。

競輪場の新規ファンの開拓、売上げを伸ばして競輪事業を継続していくために必要なもの、

何が必要かというのを、私も一緒に考えていけたらというふうに思います。

現在、武雄アジア大学、仮称が、文部科学省の大学設置認可申請の取得に向けて万全を期して取り組まれています。

キャンパスの完成予想図を旭学園のホームページから拝借いたしましたが、もし認可が下りて、武雄市に大学が開校されると、市民に開放するということはお約束されています。

私は、学校が休校のときや長期休暇のときに、子供の遊び場として機能してくれたらいいなというふうに思います。

学生たちと親子がふれあえる環境づくりにも、ぜひ市として目を向けて、学校側とも協議していただけたらというふうに思います。

あら。

ごめんなさい。

これですね、この映像です。

それでは、最後の大項目、武雄の歴史と観光について進めてまいります。

武雄市は令和6年度より、武雄市歴史文化ツーリズムを企画し、武雄市の歴史文化の価値を掘り起こし、様々な企画に取り組むプロジェクトを始動させました。

先日8月3日、武雄市歴史文化ツーリズム第2弾として、1泊2日で、長崎市と武雄市の歴史を堪能できるモニターツアーが開催されました。

これは、武雄鍋島家洋学関係資料重要文化財指定10周年を記念して、幕末、ここが日本の最先端、佐賀武雄と長崎を巡るたびというキャッチフレーズの下、企画、開催されています。

では、モニターツアーの参加者からどのような感想を寄せられたのかについて伺いいたします。

議長／山崎営業部長

山崎営業部長／議員御紹介いただきましたように、歴史文化ツーリズム事業に取り組んでおります。

第1弾として、4月に武雄温泉駅構内にアームストロング砲の復元を設置し、第2弾として8月に歴史資料館企画展と連動したモニターツアーを実施しております。

ツアーにおきましては、幕末時代、蘭学など、武雄の歴史とつながりが強い長崎を巡り、観光協会の協力で、武雄鍋島家の古文書を基に復刻した武雄領主のお献立の実食や企画展のトークセッションを組み込んでおります。

参加者にアンケートを取っておりますけども、そのアンケートの中では長崎で武雄に関係しているスポットを巡ることができ、武雄市の歴史文化への理解が深まったツアーと高評価だったほか、武雄領主のお献立や武雄の観光資源に大変興味が湧いたなどの意見をいただい

います。

また、古文書からひもとく当時の食の再現を実際に体験することができ、歴史好きとしてもよかったなどを意見としていただいております。

旅行商品として造成するに当たっての課題なども併せていただいております。

なお、この結果につきましては観光資源の磨き上げと、観光誘客に向けた政策の参考とさせていただきたいというふうに考えております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／これまでの武雄市は、温泉と焼き物が観光資源のメインであったと思います。

これからも、これらの資源はもちろん大事にしていかなければなりません。

武雄温泉は、1300 年前の肥前風土記に示されるような、深い歴史があります。

歴史的に名高い宮本武蔵や、日本に蘭学を伝えたシーボルトも武雄温泉を楽しんだと言われている。

武雄の焼き物も 16 世紀末以来の歴史があります。

私は、古武雄と呼ばれる陶器を目の前にすると、当時の陶工たちが何を思っ

て制作していたのか、思いをはせます。
観光と歴史は切っても切れないものがあり、ヒストリカル・ブランディングとして地域ブランドのコアにしていくということは、これからの観光人口を増やしていく鍵であると思

います。
そういった中で、武雄の歴史文化にフィーチャーして、価値の磨き上げに取り組んだツーリズムは画期的であり、武雄のルーツにロマンを盛り込んだ新しいツーリズムとして、高く評価されるべきだと私自身、感じております。

さて、このような歴史を絡めたツーリズムを来年度以降も実施していくのかどうかについてお伺いいたします。

議長／山崎営業部長

山崎営業部長／今後についてですけれども、まず、11 月には鎌倉武士の時代にスポットを当てたツアーを企画展と連動し、開催することとしています。

流鏝馬、鷹匠、座禅など、市内の団体や施設と連携し、武士文化を体験する内容ということで考えております。

今後につきましては、モニターツアー等の成果を踏まえ、観光協会などと連携し、観光資源として歴史文化の磨き上げを踏まえ、魅力発信、観光誘客につなげていきたいというふう

思っております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／ぜひ、これからも武雄のいろんな歴史に焦点を当ててツーリズムの企画をお願いしたいと思います。

さて、さきの武雄市歴史文化ツーリズムについてですが、企画展と連動したモニターツアーの実施ということでした。

これからも武雄の歴史文化を盛り込んだツーリズムを企画していくには、企画展では時期が限定されてしまうのではないかと思います。

では、ツアーの時期を特定せずに、企画、提案をするためには常設展示があったらどうかと考えますが、これについて将来的な市の見解をお願いいたします。

議長／野口こども教育部理事

野口こども教育部理事／現在の施設では、国が示す展示基準等から、重要文化財をはじめとする歴史資料の常設展示を行うことは難しい状況です。

今後も、観光課等と連携しながら、企画展の開催時期などを工夫し、また、常設展示がないことを補うために、企画展の内容の充実やパネル、サイネージを活用した展示を行っていきたいと考えております。

議長／1 番 古賀議員

古賀議員／現在、アームストロング砲のレプリカが武雄温泉駅に常設されています。

これも武雄市歴史文化ツーリズムの一環として取り組まれた事業ですが、旅行者や電車通学、通勤の学生や社会人の方々の目にも触れられ、親しまれています。

私たち市民がいつでも歴史文化に親しめる環境がある、それが郷土の歴史の愛着につながっていくと思います。

余談ですが、私は大学生のとき、また外国に滞在していたときに、現地に知り合う人たちに自分が佐賀県出身だとあまり知られなくなかった。

佐賀の、武雄の説明がうまくできなかった。

佐賀県武雄市出身だというプライドがありませんでした。

しかし、私は武雄市が大好きで、結局、Uターン移住をしたのですが、もし自身が若いときにシビックプライド、いわゆる郷土愛があれば、あのとき、あの場所で武雄のよさをアピー

ルできたのかもしれないと思います。

マーケティングの中で、口コミは広告を出すより集客や購買効果があると言われています。今の若い世代、子供たちが将来、市外、県外に出たときに武雄の良さや歴史文化をたくさんの人に広めることができれば、そのたくさんの中の何人かが近くに寄ったら行ってみようと思ってくれるかもしれません。

郷土愛を育むことが観光人口の増加につながると確信しています。

地元の人が武雄愛を育むためには、まず、武雄のルーツを知ること、いつも歴史文化に触れ合うことができる場所が存在することに直結すると思います。

常設展示がほしいという若い世代の声は確実に私の耳に入ってきます。

また、世代を問わずたくさんの方々からも声をいただきます。

武雄の歴史や文化財に、いつでも気軽に触れるような場の提供を市としてどのように展開していくのかについてお伺いいたします。

議長／野口こども教育部理事

野口こども教育部理事／施設の整備は難しいため、「すごいぞ！武雄」などの郷土学習資料の作成や地域学校などでの出前講座の実施、令和５年度は、歴史資料館のホームページのリニューアルと子供向けのページを増設する取組をしております。

子供から大人まで、広く武雄の歴史や文化財について学ぶ場を今後もしっかりと提供していきたいというふうに考えております。

議長／１番 古賀議員

古賀議員／常に歴史に触れ合える仕掛けづくりというのをよろしくお願いいたします。

８月１０日に駐日オランダ大使館よりロブ・アンダーソン全権公使が武雄市図書館・歴史資料館で開催された企画展に訪問されました。

見学を終えられた後に、全権公使は、武雄にこんなすばらしいコレクションがあることを自分もいろんな場面でＰＲしたいとおっしゃったそうです。

これからも武雄鍋島家洋学関係資料を活用して、長崎市、武雄市、平戸市のつながりもより一層深め、武雄の歴史文化がたくさんの人の目に注目されることを願いながら、古賀珠理の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／以上で、１番 古賀議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩いたします。

＊ 休憩中 ＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、6番 吉原議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。

6番 吉原議員

吉原議員／皆さんこんにちは。

ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、6番吉原新司、令和6年9月定例会、一般質問を始めさせていただきます。

一般質問も本日4人目ということで、皆様の心の声がひしひしと伝わってまいりますので、早速進めていきたいと思います。

今回の一般質問、1つ目に、猛暑対策について、2つ目に、武雄のPRについて、3つ目に、合併20周年についてということで進めさせていただきます。

早速、1つ目の猛暑対策についてという質問に入ります。

先ほど、古賀議員のほうから熱中症対策についてというような質問がなされましたけども、近いような内容でありますけれども。

皆さん御存じというか、皆さん感じておられると思うんですけれども、近年の夏の暑さは、異常な暑さ、危険な暑さ、そういう暑さでございます。

9月に入り、朝夕はしのぎやすくなったものの、まだまだ日中は暑い日が続いております。このような猛暑は農作物などに与える影響も大きいのですが、命に関わる暑さであることに危機感を感じるところです。

今年の夏も、報道では熱中症で救急搬送とか、熱中症が原因で死亡されたなどの事案が伝えられました。

市民の方、特に高齢者の方と話したとき、少し他人事のような感覚を持たれているような感じがいたします。

熱中症アラートが発表されているにもかかわらず、高齢者の方がよく言われるのは、窓を開けて扇風機を回しているので大丈夫とか、特に何も活動しているわけじゃないので大丈夫とか、エアコンが好きじゃないとかいう言葉をお聞きします。

逆に体調不良を経験した方からは、あんなに気分が悪くなるとは思わなかった、1人では何もできず、一時はどうなってしまうかと思い、とても怖かったと言われておられました。

そこで、この夏、武雄市において熱中症で搬送された方がどれくらいあったのか、また、亡くなられた方はいなかったのかお尋ねをいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／搬送件数について、杵藤消防本部に確認したところ、本年4月29日から8月末までに武雄市内で熱中症と思われる救急搬送患者は48名で、うちお亡くなりになられた方はおられなかったとの報告を受けております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／先ほどの古賀議員のときにもグラフでちょっと出してあったので、あれは月ごとにしてあったんですけども、合計で48名が救急搬送されたと。

死亡された方はなかったということで、死亡者が出なかったということで安心するところではあります。

救急車までは呼ばなかったけども、病院へ行ったという方やその場で適切な対応をして回復したという方も多数おられると思います。

よく耳にするのが、子供と高齢者の方は熱中症にかかりやすいという言葉です。

先ほども、高齢者の方の話をしましたが、高齢者の方にはもっと危機感を持っていただきたいと思うところです。

モニター、画像の右上の赤点線で囲っておりますけれども、高齢者は体内の水分が不足しがちであることや暑さに対する感覚機能が低下していること、また、暑さに対する体の調節機能が低下するなど書かれております。

そして、熱中症は重症化すると命の危険性もあります。

だからこそ、高齢者の方には熱中症にかからないよう、強く周知しなければならないと思います。

武雄市では、高齢者の方への熱中症予防対策の周知、これ、どのようになされているのかお尋ねをいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／周知方法としましては、6月号の市報や武雄市ホームページへの掲載のほか、7月にチラシを全戸配布し、現在は、市役所だよりで放送を行っております。

また、特に高齢者の方にはですが、地区で開催されている高齢者サロンや市の出前講座で呼び

かけを行うとともに、県指導の個別訪問やケアマネジャーの定期訪問などでも注意喚起を随時行っております。

さらに、高齢者等見守り配食サービスでの安否確認や高齢者向けの緊急通報システムの通信確認の際にも、体調管理のお声かけをさせていただいているところでございます。

議長／6 番 吉原議員

吉原議員／いろんな方法で周知をなされているということですが、集まりの場によく行かれる方はそこでいろんな情報が入ってくると思いますが、あまりそういった場所には行かない方もおられます。

チラシなどもいろんなことが書いてあるので、面倒くさいのであまり読んでないですという人もおられます。

高齢者にとっては、声で伝えることが何より効果的ではないかと思います。

しかし、地域の方がたびたび高齢者宅を訪問することは困難です。

そこで、各家庭に設置されている戸別受信機をフルに活用し、熱中症から身を守る呼びかけをするべきではないかと思います。

熱中症アラートが発表された場合などに、熱中症警戒アラートが発表されました、不要な外出は避け、室内で適切にエアコンを利用し、体調管理をお願いします、とか。

体調の異常を感じたときは、速やかに近くの人に伝えるか、119 番に電話し救急車の手配をお願いします、など。

加えて、今、武雄市内 23 か所にひんやりスポットを開設しております、ぜひ御利用くださいと、そういった放送をたびたび行えば、熱中症に対して危機感を持ち、身を守る行動につながるのではないのでしょうか。

戸別受信機をフルに活用した周知方法ができないかお尋ねをいたします。

議長／馬場福祉部理事

馬場福祉部理事／戸別受信機や防災無線での取組については、令和 5 年度に放送を行ったところ、市民の方より、放送回数が多いとの御意見を多数お受けしたことで、令和 6 年度につきましては熱中症特別警戒アラートが発表された際にのみ放送するようにしております。

なお、現在行っている高齢者の方への注意喚起につきましては、今後も継続して行ってまいりたいと考えております。

議長／6 番 吉原議員

吉原議員／令和５年度やったら苦情が来たということですかね。

私も、戸別受信機の音がうるさいというような声、たしかに聞きます。

しかし、熱中症アラートが発表された時点で注意を呼びかけることは市民の健康を守るためのものだと思います。

私は、苦情よりも、市民の健康を守ることが優先ではないかと思います。

ぜひとも戸別受信機を使った方法を何らかできないか。

最初にこの周知の放送をする前に、この放送は、市民の健康を守るための呼びかけですなどの一言が入れば、また苦情を言われている方も若干違うかも知れませんので、ぜひそこら辺も検討していただきたいなというふうに思います。

そして、子供たちへの熱中症対策も重要です。

先ほど、子供と高齢者が熱中症にかかりやすいと言われていることを申しましたが、子供は大人よりも体重に対して体の表面積が大きいため、周囲の環境の影響を受けやすく、熱しやすく冷めやすい、体格上の特徴があると言われているようです。

そのため、気温が体温より高い場合や地面からの照り返しなどの放射熱の大きい場所では、周囲の環境の影響を受けて、熱しやすい子供たちの体温は大人より大きく上昇し、熱中症のリスクが高まると言われているようです。

学校では、先生方から、熱中症にならないよう、指導が行われていると思いますが、学校以外で子供たちの熱中症が心配されます。

登校の際ですけれども、これはまだ気温が高くありません。

警戒するのは下校時ですね。

１日の中で一番気温が高い時間帯に下校ということになると思います。

特に学校と自宅の距離が遠い児童生徒、これが、心配であります。

登下校中の児童生徒の熱中症になったという事案は起きていないのか、また、登下校の熱中症対策について学校側でどんな呼びかけがなされているのか、周知されているのかお尋ねをいたします。

議長／松尾教育長

松尾教育長／今年の夏、登下校時に熱中症と思われる症状で、学校が把握している数ですけれども、小学生が３名、そして中学生は報告が上がっておりません。

それと、登下校中の熱中症対策の周知でございますけれども、登下校中に限らず、暑さ指数が３１で、状況が変わってきますが、外での運動禁止、あるいは帽子の着用、こまめな水分の補給、日陰で休むなど、全校放送、あるいは担任の先生から注意喚起をしているところでご

ざいます。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／小学生で3名、中学生ではないということですね。

周知のほうは、登下校に特化した周知ではないが、全体的を考えて周知しているということで、よかったですかね。

中学生はなかったということですが、中学生が、学校と自宅が遠い生徒、これほとんど自転車通学ということになると思います。

先ほど、小学生は3人という数が出ていましたけれども、小学生はもちろん歩きであります。

片道1時間近く歩いて通学している子供たちもおります。

そのような子供たちに学校側から、先ほど、注意喚起は全体的にやっているということですが、とても、低学年の生徒、心配するところであります。

通学路でも市街地や住宅地などであれば、家や建物が立ち並んでおりますので、日陰があったりいたします。

しかし、市街地や住宅地でない通学路沿いは日陰もなく、直射日光の当たる場所をひたすら歩かなければならない場所もあります。

モニターには、私の地元、朝日町ではありますが、日陰がない通学路の写真も数か所出しております。

職員の中にも写真の中の場所を通学された方も、何人もおられると思いますが、そのような場所に、一時的に休憩できる日陰を作れば、児童生徒を熱中症から守る一つの方法につながるのではないかと思います。

次のモニターにバス停の場所を出しております。

上の段の中央にあるのが、武雄駅の北口にあるバス停ですね。

ほかの画像のバス停、こういう武雄では、あんまり見かけないのですが、このようなバス停があることは御存じかと思います。

このような屋根つきのものを、日陰がない通学路に設置できれば、日陰で休憩を取りながら、歩いていくことができ、熱中症予防の対策の一つになるのではないのでしょうか。

子供たちだけでなく、一般の方にとっても、炎天下の中を歩いておられる方も休憩できるのではないかと思います。

そこがバス停であれば、バスを待つ方も日陰で待つことができますし、雨宿りの場所としても有効だと思います。

日陰がない通学路沿いに、小さくてもいいので、日陰ができるものを設置することができないか、お尋ねをいたします。

議長／庭木まちづくり部長

庭木まちづくり部長／通学路に日よけを設置する質問でございますが、一般的に通学路は、市道、県道など、公道を通学として利用していると存じます。

市道における現在の歩道は日よけやベンチなど、休憩施設の設置を想定した幅員の確保ができておらず、仮に設置した場合、歩行者の通行の妨げとなることも懸念するため、現状において、歩道に休憩所などの構造物を設置することは難しいと考えております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／今のところ、そういうことは難しいと、いろいろそれは、市道でやってみたり、県道でやってみたり、歩道が広いところ、狭いところ、路肩が広いところ、狭いところ、いろいろあると思うんですが、ここだったらできるんじゃないかなというところはあるんじゃないかというふうにも考えますので、こういうのがあれば、通学途中に、日陰でちょっと、4、5分でも休憩をして、また、先に進むということできると思いますので、何らかの方法がないか、また考えてもいただきたいというふうに思います。

次は、これまで、クーラーがなくて当たり前だった施設について質問したいと思います。

昨年5月に、武雄市民体育館、ケーブルワン・スポーツパークが華々しくオープンしました。施設内は全て冷暖房完備であるため、利用者の方からは、快適にスポーツが楽しめるという好評の声をいただいております。

一方、空調設備がない屋内スポーツ施設を利用されている方からは、近年のような猛暑の中で利用するのはとても厳しく、過酷ですという声をいただいております。

武雄市の屋内スポーツ施設の空調設置状況は、今現在どのようになっているのか。

また、この夏、市のスポーツ施設において熱中症搬送などの事案が出ていないか、お尋ねをいたします。

議長／山北企画部理事

山北企画部理事／屋内スポーツ施設で空調設備が整備されている施設は、武雄市民体育館、ケーブルワン・スポーツパークのみでございます。

それと、熱中症の発生状況でございますが、屋内施設での発生はあっておりません。

屋外施設においては野球場でございますが、救急搬送が2名、現場での救護対応が3名あったことを確認しております。

幸い、いずれも軽症であったとの報告を受けております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／室内、屋内スポーツ施設では、熱中症搬送はあっていないと。

屋外のほうでは、2件ほどあっているということですかね。

これまで屋内スポーツ施設に空調というのは、なくて当たり前の感覚でありました。

しかし、近年の夏の暑さは昔と全然違っております。

空調設備のない屋内スポーツ施設では、大型の扇風機を回すなどなされておりますけれども、熱中症警戒アラートが発表されているような状況では、あまり効果がないのではないかと思います。

地球温暖化と言われる中、この夏の暑さが、今後軽減していくとは考えにくいはずです。

今後、徐々にでも屋内スポーツ施設に空調設備の設置が必要なのではないのでしょうか。

何度も申しますが、熱中症は命に関わる場合もございます。

市民の命、健康を考え、屋内スポーツ施設への空調設備の設置、これも検討する時期に来ているのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

議長／山北企画部理事

山北企画部理事／現段階では、空調設備を設置する計画はございません。

今後、大規模な改修等を行う場合について、設置について検討したいと思っております。

熱中症対策としましては、現在、体育館、武道場、弓道場など、全ての屋内体育施設には大型扇風機を配置しておりますので、ぜひ御活用いただければと思います。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／今のところは計画がないということですが、扇風機で何とかなるような暑さだったらいいとは思いますが、もし、今年の夏はあんまり屋内スポーツ施設で熱中症搬送も出てないということですが、また来年の夏というのがあります。

もしそこで重大な事故が起きた場合ということも想定した上で、今後の施設の空調設備整備を考えていただきたいなというふうに思います。

同様に、学校施設についても言えるのではないのでしょうか。

かなり学校施設の空調設備の設置は進んできたと思いますけれども、現時点において、市内小中学校の空調設備の設置状況、教室以外の部屋も含め、どのように進んでいるのかお尋ね

をいたします。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／まず、市内小中学校の普通教室につきましては、全て空調を設置しております。

特別教室につきましては、小中学校ともに、令和5年度時点で半数以上の教室に設置を終えておりまして、授業で特に活用が多い特別教室につきましては、本年度、令和6年度で小学校を設置済でございます。

また、令和7年度で中学校に空調を設置する計画でございます。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／教室は全部、また、特別教室もだんだん進んできているということのようです。安心するところでもあります。

今後も着実に進めていっていただきたいというふうに思います。

そこで、先ほどの屋内スポーツ施設同様ですけれども、学校体育館の空調設備の設置というのはなされていないのが現状であると思います。

夏休み期間は授業で体育館を使用することはないと思いますが、学童保育や社会体育では利用がなされております。

夏休みの期間中の昼間、ある小学校の体育館にお邪魔をいたしました。

激しい運動をしたわけではないのですが、子供たちは汗びっしょり、私も服は汗でびしょびしょ、床に汗がしたたる状況でありました。

そのようなことから、学校施設の中で体育館も空調設備の設置が必要なのではないかと思えます。

先ほど申しました屋内スポーツ施設同様、利用する子供たちや地域の方を熱中症から守るためにも、今後、体育館も検討していくべきではないかと思えますけれども、いかがでしょう。

議長／古賀こども教育部長

古賀こども教育部長／今のところ市内小中学校体育館に空調設備を設置する計画はございません。

将来的に大規模な改修等を行う際に、設置等については検討していきたいと考えております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／改修工事がある体育館があれば、今後検討してみるということのようではすけれども、先ほどの屋内スポーツ施設と同様ですね、やはり、事故等が起きてから、熱中症が発生して命を落としたとかいう事例が出てからでは遅いと思いますので、ぜひ、検討していただきたいなというふうに思うところです。

次に、2つ目の項目、武雄のPRについてと入ります。

武雄市として、いろんな分野へのPR活動をなされていると思います。

あの手この手で武雄のよさ、すばらしさを多くの方に認識してもらい、興味を持ってもらうことで、武雄の知名度アップにつながるものと思います。

知名度が上がれば、交流人口が増え、まちの活性化にもつながり、人口減少や少子化の歯止め、これにもつながってくるものと考えます。

令和4年9月23日に西九州新幹線が開業しました。

これも武雄市にとって、とっても大きなPR材料になっていると思います。

付随して、特急列車の本数も増え、JRを利用した武雄への呼びこみが容易になったのではないかと思います。

西九州新幹線開業から丸2年になるわけですが、新幹線のみならず、JRでの利用が便利になったことを材料とした武雄市のPRはどのようなことがなされているのか、お尋ねをいたします。

議長／山崎営業部長

山崎営業部長／新幹線開業時に、武雄温泉観光案内所及び武雄旅書店を開設しております。駅における観光サービスを発信して、市の魅力ある特産品やお土産はもちろん、西九州エリアの観光情報やお土産を取り扱うことで、武雄市を起点とした西九州の旅を促しております。また、観光客が多い時期には、メインににぎわい創出を図るため、旅書店の南口広場においてワークショップやマルシェなどの企画に、観光協会や民間事業者と共に取り組んでおります。

なお、JR九州へは、乗り放題や観光周遊など、観光客が武雄温泉駅で降りやすくなるような企画、切符の販売などをお願いしているような状況になっております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／いろんな取組がなされているようですね。

ほとんど、何か駅の中でやられているという感じを受けたわけですが、皆さん御存じかと思いますが、令和4年9月23日、西九州新幹線開業と同時に、ふたつ星4047の運行も始まりました。

何となく西九州新幹線開業の話題に、ふたつ星の存在は隠れてしまっていたような感じがいたします。

最近、ある市民の方から言われたのは、あんなに人気があるふたつ星にもっと目を向けて、利用される乗客の方へ武雄を売り込むべきではないですかといったことを言われました。そのふたつ星、正式には特急ふたつ星4047といい、コンセプトは西九州の海めぐり列車というこのようです。

運行は平日の火曜日、水曜日、木曜日を除く日で、午前の便と午後の便、1便だけ運行されております。

モニターに出しておりますけれども、午前は有明海コースで10時22分、武雄温泉駅を出発。停車駅は江北駅、肥前浜駅、多良駅、小長井駅、諫早駅で、終点は長崎駅、13時15分着です。

午後の便は、大村湾コース、14時35分に長崎駅を出発し、停車駅は、諫早駅、新大村駅、千綿駅、ハウステンボス駅、早岐駅、有田駅で、終点が武雄温泉駅に17時51分着です。

これ、武雄にとって好条件の運行なのではないでしょうか。

このふたつ星の利用者をターゲットとした武雄のPRは、何かこれをやっていますというようなPRはありますか、お尋ねします。

議長／山崎営業部長

山崎営業部長／ふたつ星4047につきましては、運行開始半年で92%、それ以降も80%を超える乗車率で好調というふうに聞いております。

車内では、武雄温泉駅のカイロ堂が手がけたオリジナル弁当を楽しむこともでき、武雄のPR効果は大きく、市といたしましても、旅行会社等への商談会やセールスにおいても積極的に売り込みを行っているところであります。

また、武雄温泉駅にはJR九州のふたつ星4047、36ぷらす3、ななつ星が停車しており、PRと観光、撮影用に観光協会において駅のホームに大きな看板を設置していただいているところであります。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／幾らかの宣伝はやっているというようなことのように思いますが。

聞いた話では、途中の停車駅、有田駅とか、そういうところでは駅のホームに特産品を置いたり、ふたつ星が着いたときにアピールしたりとかというのがあっているというふうにお聞きするわけですがけれども、新幹線、これを利用される人のほとんどが先を急ぐ人、目的地に早く着きたい人だというふうに思います。

逆に観光列車を利用される方は、先を急ぐでもなく、その場、その場の魅力や美しさを楽しむのが目的なのではないでしょうか。

このふたつ星の乗車率、先ほど答弁でもありましたけれども、丸1年の乗車率というのを私ちょっと調べてみました。

新幹線かもめは34%、それに対しふたつ星は85%、かなり好調であります。

全国の数ある観光列車の中でも注目を集めているとお聞きします。

そんなふたつ星4047の人気にあやかるべきだと思います。

この10時22分武雄発、17時51分武雄着、この条件、本当に武雄にとっては好条件。

10時22分に出発する前に、その前の日は武雄市に泊まってくださいよと。

17時51分、武雄に着いたら飲食を楽しんでください、どこか旅館に泊まってください。

そして次の日は観光していいんじゃないですかぐらいの、ふたつ星のお客さんをターゲットにしたやり方というの、特化したやり方といいますかね、そういうのを極端な方法でも、ふたつ星メインのやり方というのもあるんじゃないかと思いますけれども、いかがお考えでしょう。

議長／山崎営業部長

山崎営業部長／ふたつ星4047におきましては、現状でも前泊や後泊を含めたお客様がいらっしゃるというふうなことを聞いております。

その辺をターゲットにした市内の周遊プランの造成に向けた提案やPRに今後は積極的に取り組んでいきたいと思います。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／ぜひですね、ふたつ星利用者をターゲットとした武雄にお客さんを呼び込むやり方、しっかりと考えていただきたいなと思います。

次に、ちょっと話は逸れるのですがけれども、先月8日、日向灘を震源としたマグニチュード7.1の地震が発生し、この地震により、南海トラフ地震臨時情報が発表されました。

このことをきっかけに大規模地震への備えという意識が高まり、いろんな対応を取られた自治体もあったようです。

その南海トラフ地震ですけれども、内閣府の想定で、佐賀県の震度は、発生した場合ですね、震度は4から5弱、九州で唯一津波の被害がないということを気象庁が発表しているようですけれども、武雄市としてもそのような認識でおられるのか、お尋ねをいたします。

議長／黒尾総務部理事

黒尾総務部理事／気象庁において、南海トラフ地震の一つのケースとして整理されていることは承知しております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／承知しているということですね。

モニターに出しておりますのは、今月1日に出された佐賀新聞を出しております。

他県に比べ、佐賀県は被害想定がかなり低いということを示されております。

私は佐賀県の中でも、武雄市は海がないことなどから、比較的安全な地域なのではないかというふうに思います。

このことも武雄の強みなのではないでしょうか。

南海トラフ地震、これ、マグニチュード8から9クラスの地震が30年以内に発生する確率を、70%から80%と言われております。

そして、今回宮崎県での地震を受け、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことから、慌ただしく、地震への備えムードが高まり、南海トラフ地震への警戒心も高まっていると思います。

不安を煽るわけではありませんけれども、南海トラフ地震が発生しても、武雄市は被害が少ないまちである、比較的安全な場所でありますよということで、移住を考えるのであれば武雄市へぜひといったPRも当たり障りのない言葉で、移住・定住に向けたPR、考えてもいいんじゃないかなというふうに思います。

モニターにイメージとして出しておるんですけれども、本当、いろんなこと書かないで、シンプルに、RELATIVELY SAFE CITY TAKEOですかね。

古賀さんの英語の発音より、私の発音は全くだと思いますけれども、比較的安全なまち武雄という意味になりますけれども、このような感じのPR、武雄は安全ですよ、ぜひ武雄に移住・定住しませんかというようなPRも考えられるんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

議長／松尾企画部長

松尾企画部長／現在、移住・定住に係る武雄市の強みである生活における利便性のよさ、教育・子育て環境の充実、図書館等の文化水準の高さなどとともに、地震の発生件数が少ないことをPRしております。

御提案の件につきましては、武雄市は、南海トラフ地震防災対策推進地域には指定されていないことを踏まえてPRを考えていきたいと思います。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／あまりおかしなことを書くと非常識とか言われますのでね、当たり障りのない程度でのPR、よろしくお願いいたします。

武雄のPRについての最後の質問です。

9月に入りました。

来月10月は、武雄アジア大学による大学設置認可申請の認可の結果が出ると思います。

この認可が下りれば、令和8年4月開校となりまして、武雄市は佐賀県西部地域唯一、大学があるまちとなるわけです。

あくまでも、認可が下りればという話ではありますがけれども、そのことも武雄の今後、新たなPRということが出来るんじゃないかと思っています。

武雄アジア大学、大学自身のPRはもちろん大学がやられると思いますけれども、それに付随して、武雄市としては大学があるまちということを前面に出し、交流人口の増加、移住・定住アップにつながるようなPRを準備しておき、許可、認可が下りれば即PRできるような体制を整えておくべきではないかと思っておりますけれども、そのような動きはあるのでしょうか、お尋ねします。

議長／松尾企画部長

松尾企画部長／大学のあるまちは、移住・定住に係る武雄市の新たな魅力であり、強みになるものと考えております。

先ほど述べた、本市の持つほかの強みと併せてPRしていきたいと考えております。

現在の移住・定住のメインターゲットである子育て世代に加え、若者世代への移住・定住につながっていくような移住・定住策を考えていきたいと思っております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／ぜひ移住・定住につながるようなPR、大学が開学するとなったら、またそうい

う形でのPRをお願いしたいと思います。

最後の項目、合併20周年についての質問に入ります。

昨年の12月議会において、2026年に向けてという項目で、2026年、令和8年3月で合併20周年を迎えるにあたり、合併20周年記念事業は考えておられますかといった質問をいたしました。

そのときの部長答弁では、現時点では、合併20周年記念事業はまだ考えていないとの答弁でした。

市長の思いはいかがかとお尋ねをしたところ、市長は武雄市のこれまでの歩み、礎を見せたい、そして、次への飛躍に向けた節目の20周年にしたいとの言葉をいただきました。

残すところ、合併20周年まで1年半です。

モニターに、10周年のときのチラシから矢印で20周年を、「それ、武雄はどうしましょう。」と、毛利議員さんの持ちネタでちょっとお借りしているんですけども、合併20周年事業について、何か方向性なり決まったのか、進展があっているのかお尋ねをいたします。

議長／松尾企画部長

松尾企画部長／合併10周年時の事業概要や今年度で合併20周年を迎えた唐津市や白石町ほか、他自治体の開催状況等を調査するなど、事業の検討を行っております。

議長／6番 吉原議員

吉原議員／事業の検討を行っているということですから、検討している段階だということですよ。

もうあと1年半です。

大まかな柱、コンセプトだけでもびしっと決めて動き出す時期にきているのではないかと思います。

以前も申しましたが、新幹線開業前に、職員の皆さんはばたついておられました。

土壇場になってばたばたしないためにも、早め早めの動き出し、そして、市民の皆さんの記憶に刻まれるような合併20周年記念事業につながればというふうに思うところです。

よく市民の皆さんから言われるのは、なぜ武雄は花火大会をしないのということを度々聞かれます。

私たち年代よりも上の方々は、昔は武雄も花火大会があって大賑わいしよったものという言葉をお聞きいたします。

この花火大会について、平成30年9月議会一般質問で、一度、取り上げさせていただきまし

た。

武雄でも花火大会を開催してはどうかと質問に対し、花火大会は青年会議所が開催していたが、費用面で厳しくなり中止になったと聞いている。

花火大会のみならず、イベントの開催は目的、費用、効果等を総合的に考え、実施の必要性を適時判断していきたいというふうな答弁でした。

ここ数年、新球場オープン、西九州新幹線開業、新体育館のオープンなど、記念すべきことはありましたが、花火大会の話は一切出てまいりませんでした。

地区や団体等が主催して小規模な花火大会は開催されているようですが、費用面などでやはり、市が大きく関わらなければ厳しいのが現実だと思います。

議長／間もなく正午となりますが、一般質問を続けます。

吉原議員／そこで今回、合併 20 周年記念という節目であることから、どんと一発、大花火を打ち上げてはいかがでしょうか。

西九州のハブ都市、武雄の合併 20 周年を祝して、花火大会を開催してみてもと思います。

同じ西九州新幹線駅があるお隣、嬉野温泉夏祭り花火大会の来場者を上回る花火大会を目指し、開催すれば市民の記憶にも大きく刻まれるのではないのでしょうか。

合併 20 周年記念事業の中の一つに花火大会を検討してみてもと思いますが、いかがでしょう。

議長／松尾企画部長

松尾企画部長／具体的な内容につきましては、今後、検討いたします。

御意見は参考にさせていただきます。

議長／6 番 吉原議員

吉原議員／検討材料の一つにお願いいたします。

県内の花火大会で、例年の人出が多いのは唐津の花火大会 20 万人、佐賀城下花火大会 6 万人、嬉野温泉夏祭り花火大会 4 万 6,000 人、ここらへんがトップスリーのように書かれています。

多数の市内企業、協賛などが集まれば大規模に開催することも可能だと思いますし、事前の PR 次第では武雄の人口を上回る来場数も期待できると思いますので、ぜひ前向きに検討いただきたいと思います。

先ほど、唐津花火大会は例年の手数が 20 万人と申しましたが、ほかにも唐津市では、モニタ

ーに出しておりますが、2022 年からスタートしたK a r a t s u S e a s i d e C a m p F E S T I V A Lというイベントが開催されております。

モニターのチラシは 2022 年、第 1 回目の分です。

キャンプと音楽をコンセプトにしたイベントで毎年行われ、来場数は年々増え、盛り上がりを見せているようです。

次のモニターの上半分が今年のチラシ、下半分が昨年のチラシなどです。

見てのとおりに、有名なミュージシャンたちが顔をそろえた野外ライブは大盛り上がりだったというふうにお聞きしております。

武雄も自然豊かなまちです。

武雄の自然の中で、野外音楽フェスというのも考えられるのではないのでしょうか。

これまで武雄ではM U S I C I N T A K E Oや温泉 d e ビートルズなど開催はされておりますが、合併 20 周年の節目にプロのミュージシャンを招いた大規模な野外音楽フェスティバルを開催してみてもと思います。

もちろん、地元のミュージシャンも一緒になって合併 20 周年を祝うような野外ライブが開催できれば盛り上がるのではないのでしょうか。

合併 20 周年記念事業の中の一つとして、この野外音楽フェスというのでも検討してみてもと思いますが、いかがでしょうか。

議長／松尾企画部長

松尾企画部長／先ほどと同じような答弁とはなっていますが、具体的な内容につきましては、他自治体の取組も参考にいたしまして、今後検討いたします。

御意見は参考にさせていただきます。

議長／6 番 吉原議員

吉原議員／合併 20 周年記念事業についてですけれども、いろいろほかにも提案したいことはありますけれども、今回、花火大会と野外音楽フェスを検討材料に取り上げさせていただきました。

武雄市が西九州のハブ都市と語るのであれば、常に注目される武雄市でなくてはならないと思います。

辛い災害も乗り越え、前進し続ける武雄市を強くアピールし、武雄市民の皆さんが記憶に残る合併 20 周年記念事業が開催できればと思うところです。

合併 20 周年直後には、武雄アジア大学の開学があるかも分かりません。

その翌年には、新文化交流棟がオープンする予定だと思います。

そのようなことから、合併 20 周年の節目を次へのステップとしても捉え、記念事業の中身をしっかりと考えていただきたいというふうに思います。

以上をもちまして、6 番 吉原新司、令和 6 年 9 月定例会、一般質問を終わります。

議長／以上で、6 番 吉原議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会をいたします。